



令和2年5月12日

報道機関各位

東北大学

感染症 (COVID-19) 制圧に向けた 「第2回世界主要放射光施設サミット “AOBA Summit 2 (SR20)”」を 開催しました

【発表のポイント】

- ・世界20の主要放射光施設及び関連学術組織の代表によるサミットを開催
- ・世界の放射光施設が戦略的に国際協力を展開し、COVID-19制圧に臨むことを宣言する「AOBA communique 2」を採択

【概要】

令和2年4月24日、東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センターは「第2回 世界主要放射光施設サミット AOBA Summit2 (SR20)」を開催しました。世界20の主要放射光施設及び関連学術組織の代表がオンラインで参加し、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症 COVID-19 制圧関連研究についての情報交換を行いました。また、より精確かつ迅速な研究支援を目的とした本会議の成果として、世界の放射光施設が戦略的に国際協力を展開し、COVID-19 制圧に臨むことを宣言する「AOBA communique 2」を採択しました。

東北大学は引き続き、国際放射光イノベーション・スマート研究センターを牽引役として AOBA communique 2 に基づく研究活動と情報発信を進めてまいります。

【問い合わせ先】

東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター
COVID-19 対策チーム

(e-mail) next3gev@grp.tohoku.ac.jp、(web site) <http://sris.tohoku.ac.jp/>

【詳細な説明】

今回、世界の 20 の主要放射光施設及び関連学術組織の代表が ZOOM によって参加した「第 2 回 世界主要放射光施設サミット AOBA Summit2 (SR20)」は、前身となる「第 1 回 次世代放射光国際サミット (SR9)」で採択された「AOBA communique」の下で、COVID-19 の制圧という具体的な人類社会の課題について、戦略的な連携を図るため、世界各国の主要放射光施設と COVID-19 制圧関連研究についての情報交換を行い、より精確かつ迅速に研究を支援する目的で開催されました。

参加機関は、アメリカから SLAC、APS、NSLS-II、ALS、CHESS、ヨーロッパから ESRF、DESY、Euro-XFEL、SOLEIL、DIAMOND、PSI、ALBA、ELETTRA、北欧から MAX-IV、オセアニアから Australian Synchrotron、アジアから SPring-8、SACLA、PAL、PAL-XFEL、TPS、東北大学が揃い、およそ 1 時間に及ぶサミットの様子は Youtube にて公開されました。

本会議の成果として、放射光施設における個々の研究内容や利用状況などの情報交換に加え、世界の放射光施設が戦略的に国際協力を展開し、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症 (COVID-19) 制圧に臨むことを宣言する「AOBA communique 2」が参加機関により採択されました。その活動計画として以下を掲げています。(以下抜粋、AOBA communique 2 より)

- 1) すべての X 線科学研究施設は、COVID-19 パンデミックに対処する科学研究において、情報を共有し横断的な取り組みを発展させる。
- 2) あらゆる課題に施設を活用するために、大学および産業界の利用者とともに、世界的な X 線科学研究施設ネットワークの構築を検討する。
- 3) 情報の共有を促進し、施設間のグローバルな協力を加速し、施設横断的な科学プロジェクトに最も迅速かつ効果的に取り組めるよう、IT システムの研究開発を推進する。
- 4) 利用者が施設へ移動することなく、利用者が遠隔操作で実験できるリモートシステムや、実験試料を送付して実験するメールインシステムの経験について情報を交換する。
- 5) X 線科学研究施設と他の分析施設、例えば中性子、クライオ電子顕微鏡、レーザー、核磁気共鳴などを用いる施設、との組織的な取り組みを進める。